

皇學館 学園報

第110号
令和8年6月



■注目記事 2面

角屋貴久新学校長就任挨拶
令和8年度新任教職員紹介

3面
令和7年度卒業生就職状況報告

4面
カルチャー&スポーツ グローバル
赤福が柔道部を支援

高等学校・吹奏楽部がスプリング
コンサートを開催

5面
地域連携
CLL活動説明会・スキルアップ
セミナーを実施

6面
中高トピックス
高等学校・中学校で入学式を挙

7面
高等学校で探究活動成果発表会
を開催

8面
インフォメーション
人事異動
各種講座のご案内

■シリーズ
研究室探訪② 神道学ゼミ
田井健治助教(文学部神道学科)

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大 学 | 大学院 | 文学部 | 教育学部 |
専攻科 | 現代日本社会学部 |
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

令和8年度皇學館大学入学式

649名、伊勢の地で新たな門出

4月3日、令和8年度皇學館大学入学式が本学記念講堂で挙行され、大学院19名、神道学専攻科13名、学部生611名、編入学生6名の計649名が新たな門出を迎えた。同日8日と9日には新入生神宮参拝が行われ、入学の喜びと決意を神前に奉告した。

「伊勢で学ぶ意義。主体的な学びへの期待」

4月3日、希望と緊張が交差する中、新入生たちは一堂に会し、学生生活の第一歩を踏み出した。
式典では国歌斉唱、令旨奉読に続き、齋藤平学長が式辞を述べた。学長は、第63回神宮式年遷宮に関連する行事「お木曳」が本年度と来年度に実施されることに触れ、「20年に一度の貴重な機会に立ち会

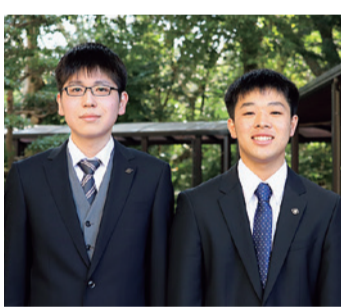


4月8日に神道、国史、現代日本社会学科、専攻科、翌9日に教育、国文、コミュニケーション学科が参拝を行った

える意義を噛みしめてほしい」と語った。また、「皇學館大学の学生には、神宮や神道に関する基礎的な理解が求められる」とし、「皇学入門」や「伊勢志摩共生学」を通じて教養を深めるよう促した。さらに、本学の教員陣について「要

点的確に捉えた指導に優れた人材がそろっている」と述べ、安心して学びに専念してほしいと期待を寄せた。
あわせて、「学生」としての自覚を持つ重要性にも言及した。「大学生は自ら時間を設計し、主体的に学ぶ存在である」と強調し、豊かな自然環境と伝統を備えつつ、現代的課題にも挑む本学の環境を生かし、主体的な行動を通じて人生の糧を得てほしいと激励した。

現代日本社会学科の木村亮介さんは伊勢志摩への愛着を背景に、「地域に根ざした学びを深め、将来は地域に貢献したい」と語った。経営や広報分野への関心に加え、サークル活動などにも積極的に取り組む、多様な経験を通じて自らの可能性を広げたいと意気込みを見せた。
新入生一人ひとりが胸に抱く思いは異なるが、伊勢の地で学ぶ意義を見つめ、自らの歩みを切り拓いていく姿が期待される。649名の新たな挑戦が、ここから始まる。



左から、濱口さん、木村さん

「新入生それぞれの挑戦」

入学式では、各学部・専攻科・大学院の代表5名が登壇し、それぞれの決意を表明した。
教育学科の濱口皓さんは数年前に「知の習得にとどまらず、応用力を身に付け、学ぶ楽しさを伝えられる教師になりたい」と抱負を述べた。出前授業な

最近、ポンコツという言葉が流行している。ポンコツという言葉は、親しみをこめて使われる。濁音のポンコツでは重苦しい。つぎに、ポンコツという言葉が流行している。長年の愛着も感じられること、役立たずになつたけれども憎めなさがあつた。そして、意味の意外性に着目した転換を図り、それが新鮮な表現として受け入れられた。こうして最近のポンコツが誕生したというところだろうか。



皇學館生としての第一歩を踏み出す新入生たち



雅楽部の奉奏による国歌斉唱

皇學館高等学校 通信制課程を新設 1期生6名が入学



4月8日に挙行された通信制課程第1期生入学式

皇學館高等学校は令和8年度より通信制課程を新設した。今春は6名の第1期生が入学。大学進学を志す生徒の期待に応えるべく、新たな学びの場が本格稼働する。
本課程の特色は「神道」を基盤に、生徒一人ひとりに合った柔軟な学習設計と、きめ細かな個別支援にある。通信制の強みを最大限に生かし、時間や場所にとらわれない自由な学びの環境を構築。本校

独自のDX教育のほか高大連携を積極的に進め、高等学校の段階で大学の学問領域に触れる機会を捉供する。さらに三重県各地に教室を有する「安藤塾」との連携により、スクーリングのない日においても学習を支える万全のサポート体制を整えている。
「あなたの可能性を、最大限に。」この理念のもと、生徒が自分らしく輝ける未来の実現をめざす。

文学部・現代日本社会学部で志願者増 令和8年度入試状況

地方の大学が国公立を問わず少子化の影響を受け厳しい時期を迎える中、本学の令和8年度入試の志願者状況は昨年度比95%でほぼ横ばいの状況であった。

学部別でみると、文学部と現代日本社会学部が順調に志願者数を伸ばした。受験生の年内で合格を確保しておきたいという志向が顕著に現れ、総合型選抜及び学校推薦型選抜の年内入試の志願者が増加した。一般選抜においては教育学科の志願者数が減少し、共通テスト利用入試も昨年度に比べると減少した。考えられる理由としては、国公立大も18歳人口の減少により年々入試難易度が低くなってきているのではないかと考える。

今年度も受験生の動向に合わせて入試制度の一部変更を予定しており、「令和9年度 学生募集要項」でご確認いただきたい。



資料請求はこちら▶

この度、歴史と伝統ある皇學館高等学校・中学校の校長を拝命いたしました。伊勢の神宮を仰ぎ、日本の精神文化を尊ぶ本校の舵取りを担う重責に、身の引き締まる思いでございます。

私はこれまで、学監として本校の国際教育および国際交流の推進に注力してまいりました。海外の提携校との交換留学や研修プログラムを通じ、多くの生徒が異文化に触れ、自らの殻を破って成長する姿を間近に見てきました。その経験から確信しているのは、「真の国際人」とは単に語学が堪能な人

は、変化の激しい現代社会においてこそ、普遍的な価値を持ちます。神道に基づいた「和の心」を養い、足元をしつかりと見つめながらも、広い世界へと視野を広げる教育をさらに進化させてまいります。グローバル化が進む今こそ、日本人のアイデンティティを根底に据えた、本校ならではの国際教育を確立したいと考えております。



皇學館高等学校・中学校 校長 角屋 貴久

就任のご挨拶

伝統を礎に、世界へ羽ばたく「和の心」を育む

本校が掲げる「清明正直」の精神は、変化の激しい現代社会においてこそ、普遍的な価値を持ちます。神道に基づいた「和の心」を養い、足元をしつかりと見つめながらも、広い世界へと視野を広げる教育をさらに進化させてまいります。グローバル化が進む今こそ、日本人のアイデンティティを根底に据えた、本校ならではの国際教育を確立したいと考えております。

新任教職員紹介

この春から新たに加わった教職員の方々を紹介します

- 1 出身地・経歴等
- 2 趣味・特技等
- 3 座右の銘
- 4 一言メッセージ

大学

教育学部特命教授
大野 照文



- 1 京都府◆京都大学卒、ボン大学(西ドイツ)自然科学博士
- 2 写真
- 3 愚公移山
- 4 宇宙や地球と同じくらいスケールの大きな人格を形成するためにも地学を学びましょう。

教育学部特命教授
加藤 茂外次



- 1 愛知県◆愛知県立芸術大学美術学部(洋画)卒
- 2 ギター演奏、ゴルフ
- 3 笑門来福
- 4 作る喜びを感じられる楽しい授業になるよう心掛けたいと思います。

教育学部助教
松尾 大輔



- 1 長崎県◆皇學館大学大学院文学研究科国史学専攻前期課程修了
- 2 神社巡り、フルマラソン
- 3 壁は、いつも自分!
- 4 結びと敬いを大切にし、一隅を照らす志で努めます。

現代日本社会学部助教
津田 翔太郎



- 1 大阪府◆神戸大学大学院文学研究科博士後期課程修了
- 2 ベース演奏、キックボクシング、小旅行、映画鑑賞、音楽鑑賞
- 3 足場のなさを、足場にする
- 4 学生の心にひびく授業ができるよう頑張ります。

学生支援部教務担当主事
太田 達也



- 1 三重県◆日本大学国際関係学部国際文化学科卒
- 2 カメラ、珈琲、楽曲制作
- 3 普段を変える。それが一番、人生を変える。
- 4 初心を忘れず、誠実に職務に取り組んでまいります。よろしくお願いたします。

学生支援部就職担当主査
辻 真奈美



- 1 長野県◆中京大学国際英語学部卒
- 2 ドライブ、旅行、編み物
- 3 明鏡止水
- 4 日々成長できるよう、前向きに頑張ります。

総務部人事担当書記
西 涼香



- 1 三重県◆関西学院大学人間福祉学部卒
- 2 旅行、食べること
- 3 笑う門には福来る
- 4 一日も早く皆さんに貢献できるよう日々努力し、一生懸命頑張ります。

総務部研究開発推進センター事務室書記補
山内 穂香



- 1 三重県◆皇學館大学教育学部教育学科卒
- 2 パン作り、楽器演奏
- 3 笑う門には福来る
- 4 日々学び、一歩ずつ成長していきます。よろしくお願いたします。

財務部会計担当事務嘱託
房延 あさみ

- 1 三重県◆皇學館大学文学部国史学科卒
- 2 旅行
- 3 善因善果
- 4 感謝の気持ちを忘れず、誠実で丁寧な対応を心掛けます。

学生支援部就職担当事務嘱託(就職アドバイザー)
脇田 匡



- 1 三重県◆元HRコンサルタント、前県立特別支援学校
- 2 滑空機操縦、古い機械のリビルド、レストア
- 3 稽古照今
- 4 卒業後、社会で「楽しくはたらく」ための準備を進めていきましょう!

学生支援部教職支援担当事務嘱託(教職アドバイザー)
阿保谷 季之



- 1 兵庫県◆皇學館大学文学部神道学科卒、元公立小学校校長
- 2 ギターを練習中です。
- 3 あせらず、ゆっくり、じっくりと…。
- 4 自分自身も学びながら、一人ひとりの思いに寄り添い、教師への夢をバックアップします。

学生支援部教職支援担当事務嘱託(教職アドバイザー)
川北 浩司



- 1 三重県◆皇學館大学文学部教育学科卒、元公立小学校長
- 2 登山
- 3 信じれば必ず夢は叶う
- 4 教職経験を生かして、皆さんの夢が叶うようしっかりサポートしていきます。

学生支援部学生担当事務嘱託(合宿所夜間管理人)
花岡 晴琉



- 1 福岡県◆筑波大学体育専門学群卒

- 2 ドライブ
- 3 凡事徹底
- 4 学生のみんなが楽しく生活できるように自分ができることを頑張ります。

皇學館高等学校

高等学校 学監
井ノ口 誠充



- 1 三重県◆名古屋大学理学部数学科卒、元県立高等学校校長
- 2 旅行、テレビを観ること
- 3 プラス思考
- 4 生徒の皆さんが充実した学校生活を送れるよう一生懸命頑張ります。

高等学校 常勤講師
内藤 志乃



- 1 三重県◆津田塾大学学芸学部英文学科卒
- 2 読書
- 3 Think globally, Act locally
- 4 海外経験を生かして生徒の皆さんの国際感覚を育む英語指導に尽力します。

高等学校 常勤講師
西根 輝男



- 1 三重県◆同志社大学文学部文化学科卒
- 2 読書、ロードバイク
- 3 一期一会
- 4 出会えて良かったと思ってもらえるよう、頑張りたいと思います。

皇學館中学校

中学校 常勤講師
二宮 功至



- 1 静岡県◆皇學館大学教育学部卒、皇學館大学大学院教育学研究科修了
- 2 テニス
- 3 ピンチはチャンス
- 4 生徒に少しでも多くの感動を与えられるような授業をめざしてまいります。

就職率99.2%を記録

令和7年度学部卒業生564名(9月卒業生を含む)の就職状況は、就職希望者516名のうち512名の就職が決定し、就職希望者に対する就職率は99.2%となった。

※学科別就職率、分野別就職者については別表参照

神社関係

40名が奉職(自家神社含む、学部のみ)

求人神社数175社359名 国史・教育学科は4名となった(男子220名、女子92名、男女間 専攻科は16名(男子11名、女子5名)に対し、奉職状況は神道学科が男子25名・女子11名、

教職関係

三重県小学校・合格者占有率は 県内大学で14年連続トップ

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員に122名(正規/公立74名・私立1名、講師/公立40名・私立7名、幼稚園・保育園へは45名(正規/公立20名・私立23名、臨時/公立2名)が就職した。三重県小学校については合格者273名中、本学は既卒者を含め112名と合格者占有率は41.0%を占め、14年連続、県内大学でトップを堅持している。

公務員関係

皇宮護衛官、法務教官、三重県庁など45名が採用

国家公務員に4名、地方公務員に41名が採用された。
◆国家公務員 4名：皇宮護衛官・法務教官・自衛官(2)
◆地方公務員 41名：三重県(行政)・四日市市(2)・鈴鹿市・津市(6)・松阪市(3)・伊勢市

3月22日、桜が見頃の中オープンキャンパスを開催



熱心に話を聞く来場者

桜の開花が進み、春の訪れを感じた3月22日、高校新3年生・新2年生を対象とした「春のオープンキャンパス2026」を開催した。付添者を含め232名が来場し、大いに賑わいを見せた。

学科説明&模擬授業をはじめ、個別相談、キャンパスツアー、教員志望の学生をサポートする「つばさ」[倉志会]の活動紹介などのプログラムを実施した。学科説明&模擬授業では、各学部学科の特色や学べる内容について紹介するとともに、模擬授業を行った。

来場者からは「有意義な時間を過ごすことができた」「入学後のイメージが具体的に湧いた」といった声が寄せられた。また、「つばさ」



好評を博した模擬授業

「倉志会」の活動紹介では、学生が授業形式で発表を行い、学生の学びの様子を感じることができる機会となり好評を得た。

今年度は、6月7日(日)、7月12日(日)、8月8日(土)、8月9日(日)、10月25日(日)にもオープンキャンパスの開催を予定している。未来発見セミナーやAO対策講座など、多様なプログラムを実施する予定だ。

保護者対象就職講演会・説明会(企業・官公庁)開催のお知らせ

令和8年6月7日(日) 13:30~16:00
場所●皇學館大学 6号館2階 622教室

就職講演会 13:40~15:00

就職活動の最新動向~変化のご家族の支援~
講師●東海裕介氏 株式会社マイナビ マイナビ副編集長

就職説明会 15:10~16:00

本学学生の企業・官公庁への就職について説明します。

「神社」、「教員・保育士」、「企業・官公庁」の進路別就職説明会の開催を今秋に予定しています。

令和7年度卒業生 就職状況 R8.5.1

学 科	卒業者		就職者	就職率	
	A	B			
神 道	男	31	28	100.0%	
	女	21	17	100.0%	
計	52	45	45	100.0%	
国 文	男	30	26	100.0%	
	女	29	27	27	100.0%
計	59	53	53	100.0%	
国 史	男	53	46	95.7%	
	女	14	11	11	100.0%
計	67	57	55	96.5%	
コミュ	男	35	32	30	93.8%
	女	33	30	30	100.0%
計	68	62	60	96.8%	
教 育	男	87	76	76	100.0%
	女	123	118	118	100.0%
計	210	194	194	100.0%	
現 日	男	85	83	83	100.0%
	女	23	22	22	100.0%
計	108	105	105	100.0%	
合 計	男	321	291	287	98.6%
	女	243	225	225	100.0%
計	564	516	512	99.2%	

令和7年度卒の就職環境も学生優位な情勢が続いた。全国的にはインターンシップ等の参加企業を中心にエントリーや選考を数社に絞り、内々定が得られれば早い段階で進路決定をする新たな傾向が目立っており、本学学生の一部でも同様の動向が見受けられた。その一方で、本学への求人依頼数は毎年増加し、就

本学への求人数は近年で最多 就職率は過去最高水準を維持

令和7年度卒の就職環境も学生優位な情勢が続いた。全国的にはインターンシップ等の参加企業を中心にエントリーや選考を数社に絞り、内々定が得られれば早い段階で進路決定をする新たな傾向が目立っており、本学学生の一部でも同様の動向が見受けられた。その一方で、本学への求人依頼数は毎年増加し、就

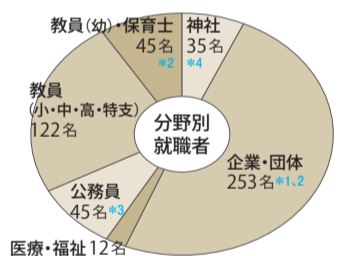
当年度の就職活動環境

SKY、野村不動産、美和ロック、近畿日本鉄道など大手企業をはじめ、三重県内でも住友電装、百五銀行、三十三銀行、三重交通など多数の有力企業に採用された。日本年金機構や三重

企業等関係

大手を含む企業や団体へ253名が決定

令和7年度卒業生就職状況



*1 企業就職かつ自家神社奉職の3名を含む
*2 うち8名は臨時
*3 公務員就職かつ自家神社奉職の1名を含む
*4 自家神社奉職かつ大学院進学の1名を含めず

未来が広がるスペシャルDAY

OPEN CAMPUS 2026

予約不要 無料

6/7 sun

大学発見 DAY

ゼミ活動紹介

13:00-16:00

7/12 sun

未来発見 DAY

未来発見セミナー

11:00-16:00

8/8 sat

学び発見 DAY

体験型プログラム

11:00-16:00

8/9 sun

AO入試対策講座

AO対策セミナー

13:00-16:00

10/25 sun

秋のキャンパス体験 DAY

学科体験コーナー

13:00-16:00

共通/学科説明、キャンパスツアー、個別相談コーナー、入試説明など

皇學館大学

学生支援部 入試担当 | 三重県伊勢市神田久志本町1704
Tel: 0596-22-6316 Mail: nyusi@kogakkan-u.ac.jp

Culture & Sports カルチャー&スポーツ

Active Student

眞金さん、澤田さんが揃ってV! 三重県新人ボウリング選手権大会



眞金さん(右)と澤田さん

「第42回東海地区ボウリング選手権大会」のチーム戦で準優勝・第3位という好成績を収めた眞金英麗奈さん(教育2)と澤田柁奈さん(高2)。その2人が再び大きな勝利を飾った。4月5日に開催された「三重県新人ボウリング選手権大会」において、眞金さんが成年の部で、澤田さんが少年の部で、それぞれ優勝を果たした。さらに、両者ともに大会最高スコアを記録した選手に贈られる「ハイゲーム賞」および「ハイシリーズ賞」を獲得。その実力を遺憾なく発揮する大会となった。

自身初優勝となった眞金さんは、「難しいコンディションの中、レーンの変化を読み取ってボールを選択し、自分で考えて投げ切れた。優勝がかかった最後の一球は緊張したが、心を落ち着かせて投げることができた。今後は東海大会や全日本大会でも優勝できるように練習に励みたい」と喜びを語った。

少年の部を制した澤田さんは、「スベアを手堅く取ることができた」と冷静に勝因を分析。「次の大会でもスベアを確実に取れるよう頑張りたい」と意気込みを見せた。

ボウリングの魅力について、眞金さんは「投げ方に個性が出る」、澤田さんは「最後の最後まで勝敗がわからないところ」とそれぞれ笑顔で話す。今後の2人のさらなる活躍に注目だ。

新入生対象に 防災避難訓練を実施



避難訓練に参加する新入生たち

令和8年4月6日、新入生を対象とした防災訓練が実施された。修学指導の一環として行われたこの訓練は、新生活を始めたばかりの学生に対し、災害への即応能力と防災意識を高めることを目的としている。

訓練ではまず、各教室で指導教員が「大地震対応マニュアル」に基づき、地震発生時の行動指針や安否確認システムの使用方法を丁寧に指導した。その後、緊急地震速報の放送を合図に避難訓練が開始され、学生たちは教員の誘導に従って速やかに第一グラウンドへと避難した。

学生部長の板井正育教授は、訓練後の講評で「訓練を積み重ねることが意識の維持につながる。大学にいる間に災害が起こった際、どう行動すべきかを常に意識してほしい」と、日常的な備えの重要性を訴えた。大規模災害の発生が懸念されるなか、学生たちは真剣な表情で自らの身を守る手順を確認していた。



左から佐藤部長、鬼塚選手、中西選手、齋藤学長

皇學館大学柔道部は、5月14日に開催された柔道部活動支援発表会で齋藤平学長は、地元を代表する企業からの物心両面にわたる支援に対し、深く謝意を述べた。柔道部の佐藤武尊部長は「選手たちの躍動とともに、赤福様のワッペンをより表彰台に近づけるよう、精進を重ねてまいります」と決意を語った。部員の中西莞二選手(教育4)は「支えていただいたことで、日本一への思いがさらに強くなった」と話し、鬼塚勇志選手(教育4)も「伊勢が誇る企業の名を背負う以上、恥じない戦いをしたい」と気を引き締めた。



「観客の温かい拍手や反応を直接感じられ嬉しかった」と話す部員たち

公演を終え、副部長の大崎要さん(3年)は「お客様からの温かい声援が嬉しかった」と感謝を述べつつ、見つかった課題を次に生かす構えだ。目標は三重県大会を突破し、東海大会での金賞、そして悲願の全国大会出場だ。全部員が心を一つにし、最高の音楽を追求する挑戦は始まったばかりである。

全日本学生柔道連盟は加盟大学の財源確保を目的に、令和8年末まで柔道衣へのワッペン広告貼付を試行的に導入することを決定した。これを受け本学柔道部は、株式会社赤福より活動に関わる経費の一部をご支援いただく運びとなった。今後、全日本学生柔道連盟が主催する大会等において右袖に同社のワッペンを貼付して出場する。また、各種指導や国際活動の場でも着用し、地元企業が地域の大学を支える価値を広く国内外へ発信していく。契約期間は1年間で、以降は双方合意のもと1年毎に更新する予定だ。

赤福の支援を力に、 柔道部が全国に挑む

更新する予定だ。



最優秀賞の栄冠胸に 吹奏楽部の新章始動

「スプリングコンサート2026」を開催

皇學館高等学校吹奏楽部が5月5日に伊勢市内、翌6日に津市内で「スプリングコンサート2026」を開催した。昨年の第31回日本管楽合奏コンテスト全国大会高校生B部門で最優秀賞に輝いた同部。部員たちは「全国の舞台上でも自分たちの演奏が通用するとういう自信につながった。音楽に対する意識が高まった」と、大きな手応えを口にする。

本公演に向け、部長の今中心都さん(3年)は「昨年の模倣ではなく、自分たちらしいステージにしたい」と意気込み、基礎の徹底を軸に練習を重ねてきた。演奏では「エルザの大聖堂への行列」や「美女と野獣メドレー」など幅広い楽曲を披露。副部長の小川のかさん(3年)が「会場が一体化しているように」と振り返ったように、会場には拍手と手拍子が響き、心地よい空間が生まれていた。

また、伊勢公演は世界的トロンボーン奏者の玉木優氏をソリストに、読売日本交響楽団バストロンボーン奏者の篠崎卓美氏を客演指揮者に迎える贅沢な布陣が実現。副部長の田中心結さん(3年)は「プロの音に触れ、一音へのこだわりに大きな刺激を受けた」と、音楽を作り上げる難しさと喜びを再認識したと話した。

Global グローバル

国立中興高級中学が来校、 交流深める



祭式教室では雅楽部による奉奏を堪能した



「大学」上/張磊教授による説明
下/本学学生による実験紹介を熱心に観察する台湾の生徒たち

「高校」上/弓道部による実技披露
下/台湾の生徒たち

4月20日から21日にかけて、異文化理解と国際感覚の醸成を目的に、台湾中部を代表する進学校・国立中興高級中学の生徒32名と引率教員ら計36名が来校した。

20日は皇學館高等学校体育館で歓迎式が行われたほか、弓道や柔道など日本武道が披露された。交流授業では中学2・3年生や高校3年生と共に学び、昼食時にも積極的に言葉を交わすなど、同世代ならではの交流を深めた。言語や文化の違いを超えて自然に打ち解ける姿が各所で見られ、校内は終始和やかな雰囲気になった。

一行は翌21日に皇學館大学を訪ね、理科の授業見学では、生物学研究室と理科教育研究会の学生による英語での研究発表に熱心に耳を傾け、実験や資料を興味深そうに見つめる様子が見られた。祭式教室に移動後、コミュニケーション学科の張磊教授が本学での学びについて説明。また、雅楽部による奉奏と楽器紹介では、実際に装束を身に付けて記念撮影を行うなど、神道文化を体感した。この2日間で日本の文化や学生生活を体験してもらった有意義な機会となった。

Regional Collaboration 地域連携

CLLで得た学びを仕事に生かす CLL活動説明会・スキルアップセミナーを実施

5月14日、CLL活動説明会およびCLLスキルアップセミナーが開催され、セミナーに玉城町役場産業振興課に勤務する卒業生の杉森さんが講師として登壇した。杉森さんは平成30年3月に本学国史学科を卒業。学生時代に取り組んだCLL活動の経験が、現在の仕事にどのようにつながっているかを語った。



「フットワークが軽くなった。飛び込む勇氣が身につく。多くの経験を積むことができたとCLL活動の意義を語る杉森さん」

「軽な気持ちで始めた」と振り返る。しかし、地域へ足を運び、多様な世代や立場の人々と関わる中で、地域との向き合い方やコミュニケーション能力を培ったという。「報告会などで人前に立つ機会が多く、話すことが苦手だった自分にとって大きな経験になった」と話し、同世代だけでなく幅広い年代の人々との交流を通じてさまざまな価値観や考え方に触れ、視野が広がったと語った。

現在、自治体職員として地域振興に携わる中で、「役場の仕事は地域があつてこそ成り立つ。地域への馴染み方や信頼関係の築き方など、CLL活動で学んだことが今の仕事の基盤になっている」と言い、「現場に足を運び、当事者の声を聞くことで、誰のための仕事かを見失わずにいられる」と熱弁した。

最後に、「CLL活動は『点』だったが、今では『線』になっている」と話し、「学生という特権を最大限に生かし、失敗を恐れず挑戦してほしい」と後輩たちへエールを送った。

「古事記と宇宙」を開催 教育学部・教育学会講演会

5月23日、本学教育学部・教育学会主催による講演会「古事記と宇宙」が開催された。本講演は数理解教育コース設置を記念し催された。第一部では京都大学名誉教授の柴田一成氏が「古事記と宇宙」と題して記念講演を行った。柴田氏は「天岩戸伝説は古代の日食を指しているとも言われている」と神話と宇宙のつながりに触れ、世界的音楽家の喜多郎氏と共同制作したDVD「古事記と宇宙」の映像を交えながら、宇宙の成り立ちなどについて解説。参加者は宇宙科学と芸術が融合した壮大な世界観に引き込まれていた。(写真上)



左から辻内心愛さん(教1)、武藤仁衛さん(教2)、濱田祐菜さん(教4)、國富恵詩郎さん(院1)

第二部「学生が語る、皇學館大での学び」では澤友美准教授が司会を務め、数理解教育コースの2年生をはじめとする学部生や大学院生が登壇した(写真下)。学生たちはこれまでの「正解を覚える学び」から「自ら問いを立て、他者と協働しながら探究する学び」へと変化した実感をそれぞれの言葉で話した。

- ### 令和8年度 CLL活動一覧
- 鳥羽なかまち(仲間)で地域活性化に取り組もう!**
空き家活用や拠点の企画運営、情報発信、住民交流を通じて地域の賑わい創出に取り組む。
 - 地域に貢献する食農教育のイベントプランナー**
JA伊勢の特産品を使って、食と農を軸にしたイベントの提案・準備・実施に取り組む。
 - フードロスなくせ! いちごスイーツプロジェクト**
~規格外いちご「かおり野」を使用したお菓子のプロデュース~
規格外の「かおり野」を有効活用し、お菓子の商品化や宣伝、販売により廃棄を減らす。
 - リニアインパクト最大化プロジェクト**
~2037年に三重県が変わります!~
リニア開業後の伊勢志摩の変化を予測し、効果を最大化する施策やPR手法を考える。
 - ぱりっ子会議から市政への提言プロジェクト**
名張市の子どもたちの意見を引き出し、市長への提言につなげるためのサポートを行う。
 - 伊勢志摩TSUTAE隊**
国立公園指定80周年に向け、若者の感性を生かした記念事業の企画立案に参画する。
 - TMKミライデザインプロジェクト**
(玉城町明るい未来推進プロジェクト)
ワークショップ等を通じて、玉城町のミライを住民の皆さんと共にデザインしていく。
 - インクルーシブスポーツ推進プロジェクト**
~共生社会の実現を目指して~
障がいの有無を問わず認め合う共生社会をめざし、誰もが楽しめるスポーツを推進する。
 - 産学官連携日本酒プロジェクト**
産学官民連携により米作り⇒造酒⇒日本酒販売を通じて6次産業化の実践を学ぶ。
 - 度会カフェリョクプロジェクト**
より多くの人に度会町や伊勢茶の魅力を知ってもらい、また地域活性化を図っていく。
 - 「広報いせ」特集記事制作プロジェクト**
伊勢市の発行物に関して、企画から写真撮影・取材・編集・校正を経て完成まで取り組む。
 - 宇治山田駅前活性化事業**
伊勢市明倫地区の課題に基づき、イベント運営や調査後の改善提案、次年度の案出しを行う。
 - Generative Link AI結(あひむすび)**
学生と福祉専門職が協働し、生成AIを用いて役立つ地元的生活情報を発信する。
 - 皇學館オリジナルグッズ制作プロジェクト**
皇學館の魅力伝える学生企画商品を、戦略策定から販売ルート確保まで検討し、めざす。
 - ウツボで地産地消プロジェクト**
南伊勢町で漁獲されるウツボを利用した商品開発に取り組む。
 - 大学生による「大学生向けごみ分別啓発活動!!」**
学生へのごみ減量意識向上のため、効果的な周知方法を市職員と共に考え実践する。
 - 令和の鳥羽 未来を創るのは君だ。**
鳥羽市の小学生の「やりたい」思いを、企業や大人と協力して形にする活動。
 - 若者の投票率UP!プロジェクト**
学生が主体となり、選挙啓発活動の企画運営や投票率向上のための提案を実行する。
 - 「江戸川乱歩×鳥羽」地域の魅力再発見プロジェクト**
鳥羽を舞台に文化資源の発掘、プロデュース、発信を手掛ける。



ゼミ生同士の発表・質疑を通じて実践的な学修の力を養う

「問題解決型学修」などといった、ひとつの課題についてチームで探究したり、企業等の学外団体より解決すべきテーマを示してもらったうえで、それに対するプランや企画を考え、相手に示すものです。神道学科では神道に限らず宗教

これらを通じた主体的な学修の姿勢、情報収集能力、情報発信能力は神道の世界に限らずどのような分野にも通じる確かな実力としてゼミ生の糧となっていくでしょう。

本ゼミでは神社や神道を理解するための手法として、主に祭祀儀礼について特に作法の意義に目を向けて理解を深める研究を行っています。有職故実と呼ばれる学問領域を中心としたアプローチによって、現在行われる様々な作法について何故そのような姿・形・形式が定まってきたのかを有職故実書とよばれる史料群や日記類から読み解いていきます。ゼミ生にはそれぞれ自身の興味関心のあるテーマに対して関係文献を解説して授業内で発表することで自分の意見・考えを的確に他者に伝える能力を養い、同時に発表内容についてゼミ生同士で議論することによって、他者の考えを如何に聞き取り、その良さを引き出していくのかという、広い視野とコミュニケーションスキルを養います。

また神道学科のゼミでは3年次に一部の教員合同でPBL(Problem-based Learning)またはProject-based Learning)を活用した授業を展開しており、本ゼミもそちらに参加しています。これは「課題探究学修」または「問題解決型学修」などといった、ひとつの課題についてチームで探究したり、企業等の学外団体より解決すべきテーマを示してもらったうえで、それに対するプランや企画を考え、相手に示すものです。神道学科では神道に限らず宗教

これらを通じた主体的な学修の姿勢、情報収集能力、情報発信能力は神道の世界に限らずどのような分野にも通じる確かな実力としてゼミ生の糧となっていくでしょう。

研究室 探訪 Vol.32

神道学ゼミ
【指導】田井健治助教
文学部神道学科

神道儀礼の意味を探究

本ゼミでは神社や神道を理解するための手法として、主に祭祀儀礼について特に作法の意義に目を向けて理解を深める研究を行っています。有職故実と呼ばれる学問領域を中心としたアプローチによって、現在行われる様々な作法について何故そのような姿・形・形式が定まってきたのかを有職故実書とよばれる史料群や日記類から読み解いていきます。ゼミ生にはそれぞれ自身の興味関心のあるテーマに対して関係文献を解説して授業内で発表することで自分の意見・考えを的確に他者に伝える能力を養い、同時に発表内容についてゼミ生同士で議論することによって、他者の考えを如何に聞き取り、その良さを引き出していくのかという、広い視野とコミュニケーションスキルを養います。

また神道学科のゼミでは3年次に一部の教員合同でPBL(Problem-based Learning)またはProject-based Learning)を活用した授業を展開しており、本ゼミもそちらに参加しています。これは「課題探究学修」または「問題解決型学修」などといった、ひとつの課題についてチームで探究したり、企業等の学外団体より解決すべきテーマを示してもらったうえで、それに対するプランや企画を考え、相手に示すものです。神道学科では神道に限らず宗教

これらを通じた主体的な学修の姿勢、情報収集能力、情報発信能力は神道の世界に限らずどのような分野にも通じる確かな実力としてゼミ生の糧となっていくでしょう。

三大パークで最高の思い出作り

全学年で遠足を実施

5月1日、三重が誇る三大テーマパークを各学年が遠足で訪れ、親睦を深めた。

1年生は志摩スペイン村を訪問。あいにくの小雨も吹き飛ばす元気いっぱい姿が見られ、ラストの雷雨さえも「特別な思い出」に変えてしまう明るさが光った。2年生が向かった鈴鹿サーキットでは、迫力あるマシン音と歓声に包まれながら、みんなで夢中になって楽しむ姿が印象的だった。高校最後となる3年生はナガシマスパーランドへ。雨上がりの青空の下、絶叫マシンに揺られながら最高の笑顔が弾けた。

1年生 志摩スペイン村

今回の遠足で最も心に残ったのは、名物のチュロスを食べたことです。私は遠足に行く前



にスペイン村について調べました。すると、チュロスがおいしいとの情報がたくさん見られ、チュロスを食べることが楽しみでした。そして、当日食べたチョコ味のチュロスは、外はサクツとしていて、中はモチモチでとてもおいしく、私の期待をはるかに上回ってきました。過去最高のチュロスです。食べてない人がいたら、ぜひ食べてほしいです。9組 伊藤祐太

2年生 鈴鹿サーキット

高校2年生になり、初めての校外活動である遠足に行きました。鈴鹿サーキットでは仲間と協力し合ってさまざまなアトラクションを調べて楽しんだり、お昼はおいしいものをたくさん食べたりしました。行きとは違って変って帰りのパ

スは静かで、それぞれが1日を満喫していました。遠足を通して、集団行動の大切さを学び、また仲間との信頼関係を深く築くことができました。今後も学校のルールを守って楽しむことを続け、規則正しい学校生活を送ってほしいと思います。



1組 佐々木丞太郎

3年生 ナガシマスパーランド

高校最後の遠足で訪れたナガシマスパーランドは、友達と過ごす時間の大切さを改めて感じられる一日だった。絶叫系のアトラクションに何度も挑戦して、そのたびに笑い合ったり叫んだりして、普段の学校生活では味わえない一体感が生まれた。何気ない会話や景色も特別に感じられて、この思い出はきっと卒業後も忘れられないものになると思う。4組 南家優杏



「清明正直」の学び舎へ、366名が入学

令和8年度入学式



厳かな雰囲気の中、執り行われた高等学校入学式

4月8日、皇學館高等学校入学式が挙行され、366名が新たな学び舎での一歩を踏み出した。式辞で角屋貴久校長は、「日本人としての自覚と誇り」「自ら学び、考え、発信する力」「国際的視野を備えた次代を切り拓く力」との教育方針を示し、「清明正直」の心を大切に、仲間と切磋琢磨しながら前進してほしいと激励した。

翌9日の対面式では校友会総務委員長の岡本成矢さんが「高校生活は主体性が問われる場である」と語り、学業や部活動、人との出会いを自らの選択で充実させてほしいと呼びかけるとともに、「最も身近な味方」として新入生を支える決意と歓迎の言葉を伝えた。新入生代表の樋口寛太さんは、先輩とともに学び成長していく意欲を表明した。同月14日には神宮参拝が行われ、入学の喜びを奉告するとともに、新たな3年間への決意を胸に刻んだ。



在校生代表の岡本さん



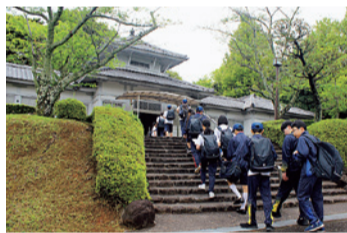
新入生代表の樋口さん

歴史・文化の理解を深める

総合フィールドワークを実施

4月24日、「地域の文化施設を見学し、本校ゆかりの歴史や文化に対する理解を深める」とのテーマのもと、全学年縦割り班での総合フィールドワークを実施した。当日は2グループ計4班に分かれ、「神宮徴古館」「神宮農業館」「神宮美術館」を訪れた。

神宮徴古館では神宮の祭りや社殿建築、式年遷宮で撤下された御装束神宝を中心に重要文化財等の貴重な資料を目の当たりにし、改めて伊勢神宮の荘厳さを認識した。神宮農業館では斎庭の稲穂をはじめとする祭りの供え物を見て、「自然の産物がいかに役に立つか」を学ぶことができた。神宮美術館においては当代を代表する芸術家が式年遷宮を奉賛して神宮に奉納した作品の数々が収蔵されており、生徒たちはわが国の美術史を展望し、目を輝かせている様子であった。



神宮徴古館、農業館、神宮美術館、四季のこみちを巡った

1年生 実りある時間に

神宮徴古館では祭りやお木曳で使われる道具一つひとつが丁寧に作られ、大切にされていることを実感した。農業館では米や塩など身近な食べ物の歴史を学び、日々の食卓への関心が深まった。神宮美術館では多様な絵画を鑑賞し、特に富士山の表現から芸術の奥深さを感じた。仲間との交流も進み、実りある時間となった。

2年生 自身の成長を実感

フィールドワークでは神宮徴古館・農業館・美術館を巡り、普段は目にするこ

ない展示を通して歴史と文化への理解を深めた。集団行動では一列での移動や後輩への声かけも実行できた。半日を通して規律ある行動の大切さや神宮の歴史等を学べ、自身の成長も感じた意義深い機会となった。

3年生 仲間と協力し、楽しさ見出す

神宮徴古館では衣食や文書など多彩な展示を見学。神宮美術館では和歌や絵画に触れ、重ね塗りの表現に魅力を感じた。農業館では農具や動物の展示に迫力があり、特に印象に残った。昼食は大学の学食で班ごとに交流を深めた。午後は雨天のためドッチビー大会となった。苦手意識を持っていた競技だったが、仲間と協力する中で楽しさを見出すことができ、有意義な時間となった。

伝統のバトンを手に、16名が歩み出す

令和8年度入学式



入学宣誓を行う坪井神唯さん

4月8日、皇學館中学校入学式が挙行され、16名が学校生活をスタートさせた。角屋貴久校長は式辞で、創立以来2200名を超える人材を輩出してきた歴史に触れ、来年度以降の募集停止に言及しつつ、「伝統のバトンを確かな形で未来へつないでほしい」と期待を寄せた。また、日本人としての誇りと謙虚さを持ち、仲間とともに高め合いながら3年間を大切に過ごすよう呼びかけた。



対面式にて挨拶をする岩田宗さん

翌9日には対面式が行われた。当初は緊張した様子の新入生も先輩との交流やクイズを通じて次第に打ち解け、笑顔が広がった。さらに4日間のオリエンテーションでは学習や生活の基本を学び、学校生活への理解を深めた。最終日には神宮参拝を実施した。生徒たちは清々しい顔つきで日頃の感謝とこれからの誓いを込めて拝した。

探究の成果、一堂に

皇學館高等学校 第2学年 「探究活動成果発表会」を開催

新学習指導要領の導入により、高等学校では「総合的な探究の時間」が必修化されるなど、自ら課題を見出し解決する力を育む教育が重視されている。こうした流れのもと、3月19日、本校体育館において「令和7年度第2学年探究活動成果発表会」が開催された。



多彩なテーマで行われる探究活動

本校の探究活動は国公立系・教育系・私大進学系・医療看護系・理系に分かれ、それぞれの専門性を生かした多彩なプログラムが展開されている。

発表会では10グループがこれまでの研究成果を発表した。2

年生、次年度に同様の探究活動を控える1年生はときにうなずきながら熱心に耳を傾け、先輩たちの取り組みに学ぶとする姿が見られた。

テーマは幅広く、伊勢の地ならではの「式年遷宮」をはじめ、「選挙制度」や「AI」といった現代的な課題、法学・教育学などの文系分野を中心に議論が展開された。後半には、「鉄バクテリアの生態と培養」といった理系研究や、調理実験をもとにした「ねるねるねるね」の考察、医療看護系に



よる地域実習の報告なども行われ、分野の垣根を越えた多様な発表が続いた。また、「お茶の木プロジェクト」や「高校生いせミライブプロジェクト」などの課外活動・同好会の報告も行われ、地域と連携した学びの広がりが紹介された。

各発表後には学校長による講評と閉会の挨拶があり、生徒たちは自ら問いを立て、探究を深めていく難しさを改めて実感し、活動の意義を再確認する一日となった。

発表一覧



1 私大文系

【A班】式年遷宮にともなう機運醸成

達瑛志朗、中垣樹己

【B班】持続可能な選ばれる観光地づくり～観光客に選ばれやすいお店の特徴とは～

渡辺琴絵、齋藤稟奈、森本有、戸田海音、山口陽平

【C班】第63回神宮式年遷宮を見据えた誘客宣伝

山口 然、向井祐規、山下明真、南 涼歌、八木美月、文珠ゆうひ

伊勢の式年遷宮と観光を軸に3班が活動した。A班は実地調査を通じ、遷宮を「自分事」と捉える機運醸成の重要性を説いた。B班はインタビューから、選ばれる店舗には「わかりやすさ・名物・接客・雰囲気」が不可欠であると分析した。C班はアンケートを行い、ライトアップや限定御朱印への需要が高いことを提示した。いずれも地域資源を理解し、主体的な関わりや具体的なニーズ把握が観光振興の鍵と結論づけている。



おかげ横丁やせんぐう館で実地調査をする生徒

2 教育系

小1プロブレム

白築凜大

小学校入学後の不適応状態「小1プロブレム」をテーマに、専門家へのインタビュー等を行った。群れ遊びの不足が背景にある中、教員に求められるのは「克服」ではなく、「児童の実態を把握し、個別のゴールへ寄り添う姿勢」としている。探究を通じ、教育の本質は周囲の評価ではなく、子どもの幸福感にあるとの視点を得た。

3 国公立文系①

AIに正義のハンマーは握れるのか

今中心都、山邊鈴那

AIが裁判に関わる際の影響について調査した。当初は「AIに裁判官はできない」との仮説を立て、各国の活用状況を比較した。調査の結果、部分的ではあるが世界的にAI導入が進んでいる実態が判明した。現時点では複雑な判断は困難だが、将来的に感情分析AI等の

技術がさらに発展すれば、人の心情を理解した上での司法判断が可能になるかもしれない。技術革新が司法のあり方を変える可能性を示唆している。

4 国公立文系②

日本に最も適切な選挙制度は何か

田中利玖

日本の選挙制度について、現行の小選挙区比例代表並列制を中心に、中選挙区制や完全比例代表制などを比較検討した。各制度を導入した場合の議席数変化を試算し、利害得失を分析した。結論として、選挙制度はあくまで政治を実現するための手段であること、あらゆる状況に対応できる完璧な制度は存在せず、連記制など他の選択肢も継続して検討すべきであるとした。

5 理系

ねるねるねるねつくってみた!

野呂くるみ

知育菓子「ねるねるねるね」を自作し、色や味が変化する化学的メカニズムを実験した。アントシアニン色素を含むぶどうジュースをベースに、重曹(アルカリ性)を加えると青色に、クエン酸(酸性)を加えると赤色に変化することを確かめた。材料の配合比率を変えることで、色調や風味にどのような差異が生じるかを検証。身近な菓子作りを通じて、酸・塩基反応の基礎的な性質を実践的に理解する機会となった。



6 理系

鉄バクテリアの生態と培養

武田悠生

鉄バクテリアの工業的活用を見据え、その生態と培養条件の最適化を研究した。冬季の観察から活性の低下に気づき、安定した培養をめざしたが、生成量の不足や期間の長さが課題として残った。今後は溶存鉄の濃度調整や温度条件の再検証を行い、これらの問題の解決とともに、鉄バクテリアの安定した培養条件の確立を図りたいとした。



7 医療看護系①

地域医療探究の成果発表

山本晃大

地域医療の現状を理解するため、多角的な講話や講習に参加した。現役の医師や助産師、技師らから専門

的な業務内容を学び、都道府県別の医療従事者数の格差など実態を把握した。また、自衛隊や赤十字社による防災・救急法講習を通じて、災害時の救助活動や胸骨圧迫等の実践技術を習得。骨髄バンクの講話ではドナー登録の重要性と希少性を知った。一連の活動を通じ、医療従事者としての使命感と地域医療の課題を深く再認識した。



8 医療看護系②

地域医療探究活動発表～課外活動・実習～

塩田美海、濱地咲里

課外活動や実習を通じ、医療の現場と救急体制について学んだ。献血啓発や病院での手術・採血体験に加え、上級救命講習で高度な応急手当を習得した。また、災害派遣を担うDMATやDPAT、自衛隊、赤十字社などから、災害医療の最前線の話聞いた。三重県の医療における南北格差問題にも触れ、地域による医療資源の偏在を実感した。



9

お茶の木プロジェクト活動報告

加藤煌貴

園芸部が皇學館大学の藤井ゼミと連携し、三重県の茶業振興を目的とした「お茶の木プロジェクト」に参加した。茶の品種特性や県内の栽培状況を学び、試験場の訪問を通じて「ミエウエジマ」やほうじ茶の製法について知見を深めた。今後は希少な「ミエウエジマ」の挿し木栽培に挑戦するとともに、課外活動へ積極的に関わっていく方針である。



10

CLL活動同好会・高校生いせミライブプロジェクト報告

小釣愛音、尾崎莉央、寺西さくら、山下輝之

CLL活動同好会・高校生いせミライブプロジェクトは地域活性に貢献した活動を紹介した。昨年11月の「おかげさまマルシェ」では、地元料理店の協力のもと商品化した「蓮台寺柿と紅はるかのタルトレット」100個を完売。1月の「河崎だいでこ市」では河崎クイズやしめ縄キーホルダーの制作に取り組んだ。2月は小俣小学校で「いせミライブスポーツ大会」を企画・運営し、約70名の参加を得るなど好評を博した。

令和8年度 生涯学習事業 皇學館大学 月例文化講座

年間テーマ 神になった人々 担当●国史学科 申込み、詳細はこちら▶

会場●皇學館大学 431教室(4号館3階) 時間●各回とも14:00~15:30 受講方法●対面形式とオンデマンド配信 定員●各回100名【先着順】 聴講料無料・要申込

- 第2回 6月6日± 堀内 淳一 教授 徐福伝説と神社
第3回 7月4日± 遠藤 慶太 教授 天翔ける心 ヤマトタケル
第4回 8月1日± 岡野 友彦 教授 南朝関係十五神社のご祭神たち
第5回 9月5日± 谷戸 佑紀 准教授 徳川家康の神格化と東照宮
第6回 10月3日± 松浦 光修 教授 神になった幕末の志士
第7回 11月7日± 長谷川 怜 准教授 祀られた警察官たち
第8回 12月5日± 谷口 裕信 教授 義人としての田中正造イメージの形成と田中霊祠

令和8年度 皇學館大学連携協定事業

古代伊勢神宮の様相 受講無料 『延暦儀式帳』から読み解く 平安時代初期の姿 講師●佐野真人(研究開発推進センター准教授) 6/21日~28日 オンデマンド配信 詳細・申込みは右の二次元コードをご確認ください。(申込期限は6月20日±)

皇學館大学 研究開発推進センター 令和8年度 公開講座のご案内

神道研究所 公開学術講演会 定員●なし 7/2(木) 17:00~18:30 4号館431教室 我が国における朱子『家礼』の受容について 一儒葬から神葬へ 講師●細谷恵志氏(本学特別招聘教授)

神道研究所 市民講座 定員●各回30名【先着順】 聴講料無料・要申込

6/27± 10:00~11:30 神道博物館講義室 神宮式年遷宮の諸祭・諸行事 講師●佐野真人(研究開発推進センター准教授) 7/18± 10:00~11:30 神道博物館講義室 神宮の創祀と式年遷宮の始まり 講師●塩川哲朗(研究開発推進センター准教授)

史料編纂所 古文書講座 定員●各回30名【先着順】 聴講料無料・要申込

6/13± 13:00~14:30 神道博物館講義室 【江戸時代の伊勢を読む①】 江戸時代の古文書を読んで、当時の伊勢について知る。 講師●梅田優歩氏(史料編纂所 共同研究員)

7/11± 13:00~14:30 神道博物館講義室 【江戸時代の伊勢を読む②】 江戸時代の古文書を読んで、当時の伊勢について知る。 講師●梅田優歩氏(史料編纂所 共同研究員)

史料編纂所 公開講座 定員●40名

9/12± 13:00~15:00 神道博物館講義室 三重県史編さんで出会った古文書(仮) 講師●小林 秀氏(三重県総合博物館 学芸員)

神道博物館 ミニ展示

6/5(金)~7/12(日) (休館日あり) 平日 9:30~16:30 神道博物館ミニ展示コーナー 土曜 9:30~12:30 瀬戸内の伊勢信仰 一牛窓神社の伝来資料から一

問合せ●研究開発推進センター (神道研究所・史料編纂所・神道博物館) 〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704番地 TEL0596-22-6466 E-mail kenkyu@kogakkan-u.ac.jp

Information インフォメーション

Table with columns for University, High School/Junior High School, and Job Changes. Lists names and positions of staff members.

人事異動

令和8年4月1日付 ()内は旧職

研究開発推進センター 神道研究所主催 令和8年度 市民講座のご案内 受講料無料 6/27± 10:00~11:30 神宮式年遷宮の諸祭・諸行事 講師●佐野真人(研究開発推進センター 准教授)

会場●神道博物館講義室 定員●各回 先着30名 開催形式●対面開催のみ(オンデマンド配信なし) 申込方法●申込フォーム(右上の二次元コード)より、開催日の3日前までに申し込み

卒業衣裳レンタル 学内展示会開催!! 7/2 THU 10:00~16:00 7/3 FRI 10:00~16:00 場所 9号館5階大会議室 着付け・ヘアセット・写真がセットになったプランがラク! 10%OFF